

# 校工理



株式会社 ミライテック  
代表取締役

## 河田 英雄

リーダーたるもの、どんと構えて何事も楽しむ余裕を持つべき——  
河田社長は、まさにそんな肩の力が抜けた自然体が魅力の経営者だ。  
経営者として大切な軸はブレず、それが安心感と信頼感を相手に抱かせる。  
優れた経営者は共通して「人を惹きつける能力」、つまり「人望」がある。  
同業者がしのぎを削るコロナ禍にも、社長のもとには依頼が舞い込んだ。

「なるようにしかならない」という余裕ある姿勢は、変化の多い現代にあっては強みとなる。

(対談記事は\*~\*頁に掲載)

**「考えすぎても、なるようにしかならない。  
ならば目の前の仕事で信頼を守りたい」**



代表取締役  
**河田 英雄**

京都・舞鶴を拠点として、公共事業を主軸に、土木コンサルティングや土木・建築・管・水道施設・とび工事などを手掛ける『ミライテック』。地域のライフラインを守る企業として舞鶴に深く根を下ろし、地域の安全・安心な環境構築に貢献する。本日は、そんな同社を牽引する河田社長のもとを、タレントの布川敏和氏が訪問し、事業や人材育成などについてのお考えを伺った。

special interview



タレント  
**布川 敏和**

# 舞鶴のライフラインを支える企業として 地域の未来を据えて人材育成にも注力

—早速ですが、河田社長はどういった経緯で現在の業界に入られたのですか。

18歳から5年間、海上自衛隊に所属した後、23歳の時に土木業界に入りました。ダンプに乗りたいたいという単純な動機でしたが（苦笑）、高校を卒業してすぐ業界に入った人に比べたらスタートが遅かった分、一生懸命に経験を積みましたね。

—その中で、独立を考えるように？

いえ、当時、独立は考えていませんでした。すべてはタイミングでした。例えば、土木工事の進捗や状況管理には工事写真が使われますが、当時はちょうどフィルムカメラからデジタルカメラとパソコンを使った管理方法への移行が進んでいました。いわば、皆が同じスタートラインに立っていた。そこで、土木工事現場の施工管理に必要な資格を取得し、個人事業を立ち上げて施工管理業でスタートしたんです。

—業界が過渡期を迎えるタイミングで参入され、上手く波に乗られたわけですね。現在は、どういった事業を主軸に据

えておられすのでしょうか。

公共事業を中心に、土木工事や建築工事、とび工事、管工事、水道施設工事、とび工事、舗装工事、しゅんせつ工事などを手掛けています。「当たり前を、当たり前そのまま維持する」を理念に掲げ、地域のライフラインを守る工事を主軸に据えています。当社には13名の社員がおり、一人ひとりが現場技術者として、綾部市や福知山市、南丹市、丹後地域にある現場の管理を担っています。当社では、現場で通用する技術者の育成に特に力を入れていますね。当社に入ってくる者は意識が高く、ノウハウもあるプロフェッショナルが多いので、安心して任せておけます。

—技術者、それも現場の管理が務まる人材の育成となると、ハードルが高そうですね。育成はどのように？

当社では資格取得を推奨していて、そのための経費は会社が負担しています。入社時に資格を持っていなくても、やる気さえあれば、入社してから取得できるよう指導してバックアップしますよ。そ

れから、事業を継続する上では将来を担う人材が必要ですから、人材の層を厚くしておくことが大切です。昨年からは30～40代で能力のある社員を入れましたし、1級・2級土木施工管理技士の資格を所有するなど現場技術者の指揮・工事全体の管理を行える人材を迎え入れたいと考えていますね。今年入社したばかりの新人については一緒に現場に出て指導しています。

—フットワークが軽いんですね。それにしても、コロナ禍では現場が止まるなどこの業界も大きな打撃を受け、廃業に追い込まれる会社も多かったようですが、御社はいかがでしたか。

確かに仕事がなくなって、経営が苦しいと嘆いたり、廃業を余儀なくされたりする同業者の姿を多く見ました。でも、不思議ですが、自分は仕事に恵まれたんです。個人事業主時代から付き合いのある会社からも仕事が回ってきましたし、周りが味わっている苦しい想いをせずにすみませんでした。中には、それまで付き合いしてきた会社から当社に切り替えられる

ケースもあって、仕事は順調です。—それはもう、要因は明らかですよ。社長に人望があるからでしょうし、人材育成に力を入れておられる御社の仕事ぶりに対する評価だと思います。

やはり、付き合いを大事にする自分の人望でしょうね。冗談ですが（苦笑）。ただ、昨年などは本当に人手不足に困ったほどでした。今より多い、15名で動いていたくらいですから。

—安定感抜群ですね。やはり公共事業を主軸に据えていらっしゃるからでしょうか。

そうですね。ただ、公共事業だけに依存しすぎると公共事業が削減された時に経営が揺らいでしまいます。社員を抱えているので収益の安定性は何より重要です。次年度はどれだけの仕事を確保できるか、今の時期は内心、ドキドキしながら過ごしています（苦笑）。公共事業は当社の根幹となる太い事業柱ですが、そこから枝葉を伸ばして、先程申し上げた様々な事業を手掛けることで、より経営の安定化を図っているんです。一つの枝葉が新たな枝葉につながることもありますからね。

—それが長く安定経営を続けるコツなのでしょうね。社長は、何と言いますか、良い具合に肩の力が抜けた方。どっしりと構えておられて、安心感があります。

ありがとうございます。そうかもしれませんね。自分はずっとダンプの運転手だと思っていたのが気づけば経営者になり、13名の社員とその家族の生活を背負っていました。責任が増えましたが、それも楽しんでます。何事も考えすぎないように心掛けているだけですよ。結局なるようにしかならないことは、考えてもどうにもなりません。それよりも今、目の前にある現場に力を注いで、一つひとつの仕事で信頼に応える、その繰り返しが明日につながるものだから。

—今後については、どのような展望を思い描いておられますか。

資格を所有していない若手を確保し、自社で教育して、資格を取得させ、自社施工部隊をつくりたいと考えています。今は、現場作業を担う職人が不足していて、どの現場も職人を求めていますから、現場管理も施工も一貫して当社で手掛けられるようになれば、少しでもお役に立

てると思います。それが、今年なのか来年なのかはまだわかりませんが、体制の強化は常に図っていききたいですね。そうして引き続き、ここ舞鶴のインフラ整備などに貢献していくのが当社の役割ですから。

—今後も舞鶴に深く根を下ろしていかれるお考えなんですね。

私は生まれも育ちもここ舞鶴市で、今後も拠点を舞鶴から動かすつもりはありません。この地域を支え、またこの地域に支えられながら、事業を通して恩返しをしていく考えです。

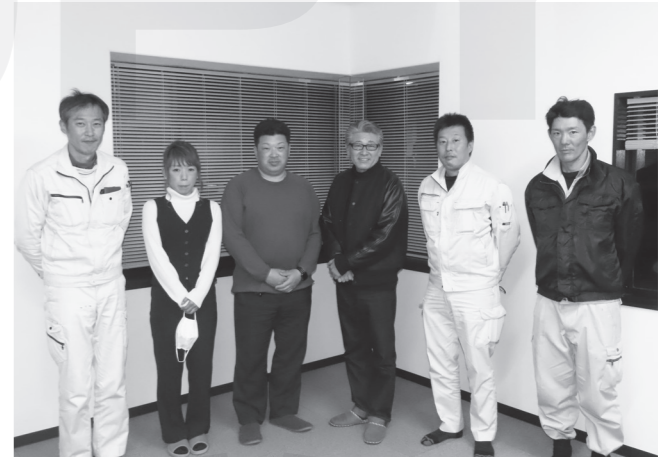
—本日は、ありがとうございました。  
(2023年2月取材)

after the interview

「この人についていけば、何とかならんんじゃないか」という気持ちにさせる、それが河田社長です。カリスマ性があるというか、安定感がある。社員の方々はきっと、安心して働いていらっやると思っています。安心できる環境は良い仕事を生み出す上で大切です。今後も御社は、人材に恵まれると思います」  
布川 敏和・談

## 事業、そして社会を支える人材を教育

▼「私を信じてついて来てくれているかどうかは、自分にはわかりません」と前置きした上で、「自分は社員のことを信用しているし、大事にしている」と明言した河田社長。現在は13名いる社員に対して、「プロフェッショナルだから安心して現場を任せられる」とその働きを評価し、待遇面が決して良いとは言えない土木・建築業界で待遇面を充実するほか、資格取得によるキャリアアップも後押しする。この業界でも進む少子高齢化に伴い、現場管理を担う技術者が減少。しかし、地域の環境を守る土木・建築工事は時代を問わず社会から必要とされる。「現場で通用する人材を育てていくことが私の使命だと感じています」と話し、『ミライテック』は現場教育・資格取得に注力。「未来に貢献できる技術者を一人でも多く育成する」という企業理念を軸に、今後は若手の確保と教育を進めていく。



## 株式会社 ミライテック



京都府舞鶴市字真倉 172-9  
URL : <https://miraitech.net/>

